

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、昨日に引き続き市政一般質問を行います。

本日の登壇者は5名を予定しております。

20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 改めまして、おはようございます。まずこの場を借りまして、さきの2月21日、任期満了に伴う長崎県知事選挙が執行されまして、前県副知事の中村法道氏が見事初当選を果たされました。心よりお喜びを申し上げたいと思います。

長崎県を知り尽くしてあります中村新知事に対しまして、我々対馬市議会議員有志の会も対馬の抱える諸問題に対して、大きく8項目の協定をさせていただいております。これからの県政運営の御活躍を御祈念申し上げます。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

1番目の対馬への観光集客事業の推進についてであります。100年に一度の大不況によりまして、経済も著しく落ち込んでいる今日であります。対馬の経済状態は大変なときであります。このようなときにこそ交流人口の拡大を図ることにより、雇用促進にもつながるのではないのでしょうか。行政において、観光客の増加に対してどのように取り組んでおられるのか、また今後どのように取り組んでいこうとしておられるのか、お尋ねをいたしたいと思います。

2番目の対馬の砲台跡についてであります。蒙古の襲来、日清戦争、日露戦争、第二次世界大戦等ほかにも幾多の戦争がありまして、多くの犠牲者がっております。そのおかげで今日の日本があり、今日の対馬があり、今日の私たちがあると思います。そのことをむだにしてはできないと思いますので質問をいたしますが、調べてみて初めてわかりました。対馬に31カ所という砲台跡にただただ驚くばかりです。対馬に住んでいてわからないのは恥ずかしいばかりですが、現在は豊の砲台跡、上見坂公園の砲座跡しかわからないのが一般的なように思われます。

先人の築き上げられたものを大切にしていきながら、二度とあってはならない戦争を引き起こしてはなりません。それとともに、これらを皆様に見ていただけるように整備をしていけば、観光面においても社会的な勉強にも大いに役立つものがあると思います。今後、整備していかれる考えは持っておられないかお尋ねをいたします。

なお、再質問は後ほど市長答弁によりましてさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。中原議員の質問に答えさせていただきます。

1点目の観光客を呼び込むためどのように取り組んでいるのかというふうな御質問でございましたが、観光客の誘致につきましては、対馬市観光地づくり実施計画に基づき、国内・韓国両面

にわたって事業の推進を図っているところでございます。

まず、国内観光客の誘致につきましては、東京・大阪・名古屋圏の旅行業者を中心に30社余りを訪問し、史跡めぐり・自然など体験できる旅行商品を目玉に営業し、エージェントの皆様個人ツアー・団体ツアーの2本立ての旅行商品の推奨を図っているところでございます。

バスツアーでの入り込み実数ですが、18年より年々増加傾向にありまして、20年は1万3,000人の入り込み数となっております。そのほとんどは九州郵船の高速艇が利用され、順調な誘客状況でございましたが、折からの燃油高騰による減便にて半年間のブランクが生じたものの、九州郵船では営業拠点としての東京事務所のほか、これまでの大阪事務所と九州本社の兼務から大阪事務所の独立が図られまして、九州地域における営業が強化されました。これにより、対馬市福岡事務所との連携も密に図られることになり、同社の壱岐・対馬を目玉にした商品アイランドパックを始め、たゆみのない営業体制により、従来の2便体制への復元とともに徐々に好調の兆しと聞いております。

平成20年度の実績内訳としては、その7割強が東京・大阪・名古屋圏からの団体旅行客であることと、単なる価格競争ではほかの観光先進地域には太刀打ちできない部分もありますので、特別にこだわりを持ったマニアックな旅行商品、すなわち対馬ならではの自然、歴史、国境等を売りにした商品で観光客を招く提案を推し進めているところでございます。

また、補助事業を活用し、エージェントや一般民間人を対馬体験ツアーに招待し、対馬の自然・歴史を味わっていただきました。

今後、体験ツアーでの御意見をいただきながら、対馬こだわりの旅行商品を広く紹介し、誘客を図っていききたいというふうに考えております。

また、以上のお客様に対応するための受け入れサイドの整備としては、観光ガイドの育成も行ってまいります。

シナリオがあれば旅行者もやってくるわけで、旅のプロデューサーとして現地ガイドは重宝されます。現在、厳原地区で27名で構成するガイドの会「やんこも」は既に実績を残して好評を博しております。

さらに、中対馬地区14名、上対馬地区で15名と実戦に向けた養成が行われており、旅行者の幅広いニーズにこたえるための体制の充実に励んでおります。

次に、ここ数年増加傾向にあった韓国旅行客についてですが、一昨年9月から円高ウォン安と新型インフルエンザによる影響で入り込み数が激減いたしました。

しかしながら、福岡市への入り込み数が50%強の減に対し、対馬ではおよそ38%の減少におさまり、現在徐々に回復の兆しが見えてきております。

平成19年資料ですがおよそ6万5,000人であり、1人当たりの消費額は約3万3,000円

となっております。つまり、対馬での全体消費額は21億円余りは島内で消費されている事実があります。

今年度も、韓国での宣伝事業として、パンフレット、ガイドマップ、観光DVD、ポスターを作成し、旅行者に配付したり、韓国語メールマガジンの配信や釜山市の地下鉄に対馬CMポスターを掲示するなど、対馬観光のPRに努めているところであります。

次に、砲台跡の整備計画についてお答えします。

対馬は、大陸との間で交流を続けてきた歴史があります。逆にその反面、日本の防衛の最前線基地にもなっており、その代表的な史跡である古代の金田城跡と中世の清水山城については国の指定を受け保存整備を進めております。

日清・日露・太平洋戦争と築造されました近代の対馬における砲台跡についても、対馬の貴重な戦争遺産には変わりありませんが、箇所として27地区に複合したものを含め31カ所の砲台、望楼等が確認されております。その所有者、管理者についてもまちまちでございまして、国、県、地区の共有、個人まで、複雑な状況のようです。

観光地として現在でも利用されている砲台は、豆靨崎、竜の崎、上見坂、城山、棹崎、豊の6カ所が代表的なもので、砲台の延長で自衛隊が利用している箇所は竜の崎と海栗島の2カ所でございます。

今後、観光資源として利用可能な砲台は、利便性から考えますと幹線道路に近い厳原町の安神、美津島町の芋崎、姫神の3カ所程度かと考えますが、いずれも砲台の造形美、保存状況、築造の目的等、その特徴において観光資源になろうかと存じます。

しかしながら、現状では、全島に存在する砲台の保存整備についての計画は持ち合わせてはおりません。整備については砲台跡や望楼など、そのものの保存のための整備と案内板等の整備が必要ではなからうかと思えます。国土防衛の戦略や歴史にかんがみ、特筆すべき砲台やその築城工法を特定するなど、アクセントをつけて整備する方法もあろうかと思えますが、そこに至るまでには専門家の助言や地主さん、それから管理者の了承を得るなどのプロセスが必要となってきます。

この砲台跡の整備については、これまで観光資源活用策、文化財保護の両面においても関係者や関係機関が協議した実績はないようです。将来的には31カ所すべての砲台の整備は無理としても、観光振興はもとより戦争を風化させないための対馬からの情報発信の材料として、箇所を絞って保存と活用、両面を考慮し、文化財審議委員会や軍事の専門家あるいは学会、必要であれば文化庁など関係機関・団体における働きかけを行っていきたいというふうと考えております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 今回の質問は、観光客をいかに対馬に来ていただけるためにはどうすればいいのかという質問でありますので、私は対馬の砲台跡は観光面にプラスになると思いますので、一緒に引くくめた感じで質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

市長、この砲台跡につきまして、何か所ぐらい現地に行かれて見られたことがございますかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど申し述べました中では、当然、上見坂はしょっちゅうですし、ある意味豆敷崎もそうです。豊にも何度も行っておりますし、もう砲台っていう感覚ではなかったですけども棹崎とかも行ったといえれば行ったという形になろうかと思えます。もう、それこそ31カ所すべてを行ったわけでもありません。私も中原議員と同じで31カ所という数字を聞いて、正直行って今回びっくりしたぐらいであります。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） はい。本当、これは平成18年ごろですね、もと対馬支庁におられました方が2年間にかけて調べられて、大変なこう写真つきで非常に丁寧に書いてありましたし、たくさん調べていただいたなあと、本当対馬においてわからなかったっていうことで、本当にその方に感謝をしなければならぬんじゃないかと思えます。

まず、本当、豊砲台でありますけれども、本当にすばらしい砲台でありまして、昭和4年から昭和9年にかけて約5年の歳月をかけてつくられて、世界最大規模と言われるような施設だそうでございます。昭和初期の時代にあのようなすばらしい施設ができていることに対しまして、私、先人たちの苦勞を学びとることと、対馬要塞群は貴重な遺産であると思えます。

まず、豊の砲台であります、100円を入れれば中の明かりが30分つきますと書いてありました。そこで100円を投入してみましたところ、なかなかお金を入れるボックスが高くて、私が手を上げる状況で、この高さでお金を入れないとボックスがありません。ですから、女性にはなかなか届きにくいと思います。台が要るんじゃないかなあと思えます。

そして、お金を入れようと2回ほど試みましたが、ボックス等お金の収納箱の外側にもう1カ所防水の箱みたいなものがあるものですから、お金がなかなか入りにくいですね。落ちます。外に2回ほど落ちましたね。高いうえに入れにくいので、そしてまた二重にふたがなっているものですから、お金はなかなか入らずに外に落ちるような感じでした。あれは改善の余地があるんじゃないかなあと思えます。高さとかお金を入れる状況ですね。

そして、やっぱ中に入ってみましたけど、明かりが暗くてですね、本当1人で入りましたところ、奥に行けば行くほど不気味でしたね。あの管理状況はあそこはどういった状況になっとるんでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 管理状況につきましては、担当のセンター部長のほうにちょっと答弁をさせたいと思います。

○議長（作元 義文君） 上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本 治源君） お答えいたします。

定期的に確認といいますか、状況把握はしておるつもりでございますが、修理、今言われたような管理につきまして、もう少し管理していく必要があるのかなとこのように思っております。以上です。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） なかなか答弁が歯切れが部長、悪いですけども、やっぱりきのうも松本議員が質問しておりましたけれども、質問を出しておるわけですから、やはりそういったところには現地に赴いていただいて、市長以下どなたでも結構です。担当部長にしても赴いていただいて、その質問内容等を把握していただきたいなあとと思います。今後は気をつけていただきたいと思います。

豊の砲台に対しては市長に言うてもできんなら、上対馬の川本部長。奥に、左側の奥に何か水槽みたいのがありましたけれども、水がたまっていてフェンスが張ってありましたけれども、何かそこから飛び出てくるんじゃないかなあと薄気味悪い状況です。あれはくみ取られたほうがいいんじゃないかなあと私感じたわけですけども。それとか手前に濾過池ですかねありましたけれども、もう水が満タンで、だからやっぱり観光客が見やすい状況にされたほうがいいんじゃないかなあと私感じましたけれども、よろしく願いしたいと思います。その辺どうですか。市長、直接聞いていいですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私自身が豊の砲台には二、三度行ったことは——子供のときから言うたら何度も行ってるんですけども、今おっしゃられるような左側の場所、それから恐らく右側の濾過池ですかね。とかいうことは何となく漠然としか見えてこない部分があるものですから、一度現地には行きたいと思いますので、御容赦のほどお願いします。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） そしたら、次に、緒方の姫神砲台にちょっと質問をいたしたいと思いますが、これは姫神砲台は、明治33年から35年にかけてつくられたと書いてありましたけれども、その先にまた折瀬ヶ鼻砲台が2カ所あるということでございます。

緒方の集落から上って1キロぐらい先にずっと道路が、市道が3,600メートルですかありますけれども、1キロぐらい上ったところはかなり雨風ですか、道路が陥没しております。通れ

ない状況です。前ごろまでは自衛隊が演習にずっと使っていて、緒方の方とずっと自衛隊演習で、緒方の方も定期的に出られて掃除も姫神砲台あたりはされてあったと聞きましたけれども、市道でございますのでやはり舗装でもするべきじゃないかなあと。それか車がいつでも通れる状況をするべきじゃないかなあと思いますけれども、これまた現地も見てなかったら返答ができないと思いますけど、市長どうですか、その辺。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私は正直言いまして、姫神砲台行ったこと全くありません。そういう中でどういう経緯で集落から姫神砲台までの3,600メートルですかね。市道の設定をされてるのかがちょっとわかりませんが、今担当のほうへ聞きましたら、軽トラ1台ぐらいの幅員しかないんだと。今はですね。市道の幅員は。ということでございました。

陥没したところがあるということですので、そのあたり市道管理の立場できちんと補修はしていかなくてはいけないと思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 緒方の人に尋ねましたところ、そこ共有林が多いそうです。市有地は市有地ですよ。その道路はですね。はい。で幅員は軽トラどころやなくてですね、大型トラックでも何でも通れる状況であります。広いです。結構な道路です。ただ、1キロ先に陥没しておりますのでその先全く行けません。整備をお願いしたいと思います。できましたら舗装までしていただければ非常にいいんじゃないかなあと思います。そして市長の答弁にもありましたけれども、31カ所もあります。そして案内板等が全くありません。できたら案内板を、どこの砲台にしましてもつけていただければと思います。

次に、上見坂公園にも行きましたけれども、砲座跡しかありませんけれども、歩道が見えないくらいに土砂が流出しておったところがあったんですね。奥の広場には大きな木が倒れて今、現在あります。その上見坂公園の管理状況はどのようになっておりますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 昨日の松本議員のときにも答えさせてもらいましたが、嘱託員を1名雇用しております、その方が何カ所もの観光地をずっとめぐって管理をお願いをしてるところでございます。その倒木のお話ですね。はいつの時点かわかりませんが、観光地にふさわしいような管理ができるように指導もしていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひですね、今の状況では観光地としてふさわしくないように見受けられます。本当、私が申すのおかしいですけど、今の状況では来てもらうのに恥ずかしいんじゃないかなあと。トイレはきれいですよ。上見坂公園のトイレは。それは棹崎のトイレとは

また比べもんにならんくらい立派なもんです。

やはり木がかなり覆いかぶさってますよね。あの木は切れないものかなあと。公園ですね。もう本当、女性の1人や2人で歩くのは怖いんじゃないかなあとと思うぐらい木が茂ってますよ。市長、1回、忙しいでしょうけど見ていただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今上見坂のお話ですが、あそこの所有者である財務局のほうになると思います。そちらの所有者との関連もあります。以前も観光地として見晴らしをよくするために伐採をしたいというお願いを以前もしたことあるんですけども、そのあたり大変難しい部分もあるかと思います。ただし、園路の部分ですね。園路の部分が大変覆いかぶさって暗いとかいろんな状況というお話のようにありますので、そのあたり、また所有者のほうとも協議を進めていきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 豊の砲台はまだ木がこうたくさん生い茂ってはおりませんけれども、上見坂のその砲座跡を見ましたときに、どこら辺を目標にその砲台を構えられたかというのが、木が生い茂っていて全くわかりません。極端な話、小茂田浜とか目標に置いてあったんじゃないかなあと。それを目的につくられたように思いますけれども、できますならばその砲台を見た場合に、そこに立った場合に、その目標の方向だけでもやっぱ木を切るべきじゃあないかなあと思うんですが、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 切るべき、そういう見せ方っていいですかね、見せ方っていう——見せ込み方っていうのを含めて土地の所有者、木の所有者のほうに相談はしてみたいと思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひですね。あそこに子供のときに遠足に行った方、巖原の方に聞きましたけれども、ちっさいときはずっと浅茅湾も何も砲台跡から見えておったということを知っておりますので、今かなりやっぱ木が伸び過ぎたんじゃないかなと思います。

観光面でありますので、砲台跡はそれぐらいにしまして、そして——それぐらいでできませんが、上見坂公園の兵舎跡を今、危険立入禁止という張り紙がされて、対馬市とそこまで書かれてロープが張りめぐらされております。本当に見た感じよくありませんけれども、どのように、屋根でも解体して壁をそのまま残すのかとかですよ、どのように考えておられるのか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほどから申しますように、所有者である財務局等の考え方を聞かなくてはいけないと思いますし、以前文化庁のほうが近代戦争遺跡としての調査も入ったという話し

も聞いております。しかし、その後進展があつてないようにもあります。

所有者の方々、それから市の文化財審議委員の方々等も含めて、この戦争の近代遺産というものをどのように残していくかということの論議をしてみたいと思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） はい。対馬市の看板ですからね、やはり早急にあれも対応していただきたいと思います。

それで今、対馬市のパンフレットがきれいなのができておりますけれども、この中に対しましても豊の砲台跡しか載っていないんですね。できますならば別番号でも打って、いろいろホテルとかタクシー会社とかガソリンスタンドとか書いてありますように、こういった書き方でも結構だろうと思います。31カ所の砲台跡ですね、31カ所の砲台跡は載せるべきじゃあないかなあと。そうすることによって、また、歴史家とか一般の観光客にもつながるんじゃないかなあとと思いますが、どうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今までの感覚で観光パンフレットをつくってきたと思います。今、中原議員のほうで新たに近代戦争遺産としてのこの砲台っていうものを観光に活用していった方がいいんじゃないかという御提言でございますので、提言を受けまして、また関係部局とも詰めていきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 観光面におきまして次に質問したいと思います。

教育長が不在でございますので、市長の見解だけで結構ですので、議長、通告にはありませんけれども遺跡に関してちょっと質問をしたいと思っておりますので、お許しをいただきたいと思っております。

昨日、松本議員の質問にも市長、答弁によりまして、悔しい思いをしておるという答弁もあつておりましたけれども、遺跡に関しまして峰町三根の山辺遺跡御存じでしょうかね。そこが約10年前に弥生中期の土器が出ましたという新聞等に発表がありました。そのときの発見は素晴らしいもので、大々的に取り上げられましたけれども、民間の土地でありますのでそのまままたすぐ埋め戻しをされております。その後、全く発掘をされておられません。学芸員の話によりますと約4万平米ぐらいのところに対して七、八万平米ぐらいしかまだ採掘をしてないということでございます。それだけのこのインターネット等にもありますけれども、集落跡を発見できたのはこの山辺遺跡だけだそうです。対馬においてですね。それだけに今、壱岐の原の辻がこの14日にオープンで、合わせまして39億の予算で博物館ができております。その三根の山辺遺跡に限らず、どの遺跡に関しましても最後まで掘られてないのが現状ではないかなあとと思います。予算等もありましようけれども、やはりこの山辺遺跡は福岡大学の教授まで来て、素晴らしいものだ

と絶賛をされて、今後の遺跡発掘に対して関心を見ていくと、調査を見守りたいとまで話しありましたけど、その遺跡に対して市長、市長の見解をちょっと伺いたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私、実は高校時代に郷土社会部っていう部がありまして、そういうクラブに所属をしておりました。そして、高校時代からある場所の発掘調査のお手伝いにも駆り出されたこともございます。

そういう意味において、私自身もすごく興味のある部分でありまして、山辺遺跡が発掘された当時も、自分自身——埋め戻す前ですね、私も足を運んで、担当の方々から詳細な話も聞いたことも今思い出しました。

確かに、発掘調査が中途半端に終わってるじゃないかという御指摘ですが、どういう理由で山辺の発掘調査がとまったのか私はわかりません。

しかし、この遺跡っていうものはこの対馬において、実は弥生のみならず縄文も実際はあるはずなんですけども、対馬のこの平地の広がりがない中でどんどん複層してきてる実情がありまして、どの時代まで掘り下げていくかというふうな難しさも対馬の場合は抱えております。そういう意味におきまして、遺跡というものをどの時代に焦点を絞りで対馬を見せていくかということも大切な視点だというふうにも思っております。今現在、金田城、それから金石城周辺ですね、を国庫補助事業で一生懸命取り組んでおります。どうしても国の補助もそうですが、市の財政も苦しい部分がありまして、発掘調査が伸びない、そしてその整備が完了しないという状況も今あります。もっともっと私どもの財政が許すならばそのあたりを見せ込んでいけるのになあという、ある意味一支国博物館ではありませんけども、悔しい思いもしてるところです。

しかし、そういうものが対馬には存在してるということを決して忘れてはいけないという思いでおります。長い目できちんと見せ込むことができるように頑張っていかなければいけないというふうに感じております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひ、今度教育長が選任されますならば、そういったところも力を合わせていただきたいと思います。

福岡大学の教授の話によりますと、やはり中国の史書魏志倭人伝に記された対馬国の中心集落であった可能性もあると言われております。ぜひ山辺遺跡、ほかの遺跡に関しまして、壱岐の原の辻に負けないぐらいの遺跡を発掘していただきたいと思う次第であります。

で、この遺跡も対馬において今のところ56カ所発見されておりますね。この56カ所が主に峰とか豊玉とか西海岸沿いの湾内に多く存在しておるのがよくわかります。今後の遺跡発掘に期待をいたしたいと思いますが、合併した今日、きのうも答弁されておりましたけれども、各町に

あります歴史資料館にあります。展示してあるその出土品をビジターセンター等に、きのうもいろいろと話をしてありましたけれども、そういった一堂に集めるときに来ておるんじゃないかなあと思います。それと言いますのは、峰町の歴史資料館を参考にさせていただくならば、いろいろと国内とか韓国から学者が訪問されるそうです。その際に、今公民館に2人おりますけれども、市役所職員に尋ねられますけれども、学者と対等にできる見識は持ってないということです。今学芸員は美津島の文化会館におられるんですかね。だから、対等にその学者と渡り合える専門的知識を持った方がそういった資料館におらないと、せっかく見に来られてもお互い気まずい思いをして、お互いが帰らなければならないと思うところです。市長、その辺どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 学芸員は、どうしてもそういう施設の案内人という役割ではございませんので、今抱えておりますさまざまな事業の専門的な分野でずっと掘り下げていって来ております。その意味におきまして、今あります各施設の案内等につきましては、専従職員はおりませんけれども、そこに、峰でありましたら教育委員会が入っておりますけれども、教育委員会職員がそのあたりの勉強もして、学者さんに対等に話すということは不可能だと思いますけれども、その専門の部分については文化財課の学芸員のほうと時間をとって話し合っていたきたいと思います。文化財課の学芸員は、観光案内人はちょっと難しいというふうな考え方を私自身は持っております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 一堂に対馬の出土品を集めることによりまして、やはり観光客にとりましてもいいことだし、歴史家にとりましても一堂で対馬の現状がわかりますので、やはりそういった方向でしていくのがいいんじゃないかなあと私は思うところです。そしてまた、学芸員はそれは遺跡発掘等に専門的にやっていたらかなければならないかわかりませんが、またそういった資料館に居合わせたとき等に説明ができるんじゃないかなあと思います。今の現状においてはちょっと、ただの、資料館を飾っておるだけであまり意味がなさないと思うところです。

次に、福岡で主に、長崎でも物産展を開いてありますが、ただただその商品売るばかりだろうと思います。あとはインターネット等で商品の注文もあっておるかもわかりませんが、それよりも同じ物産展を開くならば、対馬の歴史に残っている蒙古の襲来のよろい・かぶととか、いろいろな仏像とか宗家の古文書とか、持ち出せる物は持ち出して、経費もかかりましようけれども、歴史と文化を広くその国内の方にわかっていただくような宣伝をしながら、同時にその物産展を開いてみたらどうかと思うんですが、市長、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新しい御提案ですが、少なくとも文化財的なものにつきましては、今ちょうど新潟市の美術館でいろんな問題が起っております。国宝を動かす、企画展で預かり受けるという予定みたいでしたが、それを国宝の管理者でありますほうが拒絶をすると。それは管理の問題が、その程度の管理ではだめだというふうなことで問題になっております。文化財を持ち出してどうのこうのしていくとかいうことは大変難しい問題があるかと思えます。すべての品物に関しましてレプリカ等があればいいんでしょうけども、なかなかそういうふうな状況でもありませんし、写真とかそういうものを張り出していくことは可能でしょうけども、実物を外に出して物産展といいますか、そういうものっていうのは難しいと思えます。そういう点におきまして、逆に対馬学への招待っていうことで、福岡のほうで2カ月に1回今進めておりますが、そのあたりで皆さんにわかっていただけるようにある意味してるつもりでもあります。物産展とタイアップはしてませんが、そういう取り組みはしております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 持ち出せない物を持っていきませんかとかいう意味じゃあなくて、そのようにいろいろと、ただ、こちらにある水産業とか農林業にある品を持って、ただ商品売るだけよりも、そういった形をとられたら、今後対馬のPRになるんじゃないのかなあ、なるんじゃないですかという提案でございますのでぜひ考えていただきたいと思えます。その中におきましても、対州そばとかろくべえとか、実体験ができるようなそういったのも一緒に入れていただければなおPRになるんじゃないかなあと思うわけです。どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私のとらえ方が間違ってたのかもしれませんが、私はてっきり文化財的なものをおもっておりましたが、今のお話聞きますと農業とかさまざまな物産に絡んでいくという体験っていいですか、文化の部分をお客様に実体験をさせたらどうかっていうお話で理解しました。

そのあたり今後、今までは取り組んでない部分です。やれる状況があるならば取り組んでいけば、当然向こうの方も喜んでいただけるのかなあというふうには思います。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） そういったところを考えていただきたいと思えます。

それで、今、平成20年度の観光客数ですけれども、五島市は約121万4,000人、対馬においては79万4,000人、壱岐におきましては58万9,000人。これは本当の観光客ではありませんけれどもこういった数字になっておりますけれども、五島市と比べますと約41万人ぐらいの差が出ておりますけれども、この差は市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 行政の取り組み不足もあろうかと思いますが、それ以上に私は観光っていうのは民間事業者の問題もあろうかと思っております。物見遊山的な観光っていうのは終わっております、マニアックな商品を今つくろうとしておりますし、そちらの方向で官民一体挙げて取り組んでいきたいと思っております。観光地とか景勝地とかいうものではもう観光客は私は呼べないというふうな考え方持っておりますので、先ほど申しましたような展開を推し進めていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 今大手旅行代理店に30カ所余り訪問しておるといってございましてけれども、旅行客は対馬に1便の飛行機で来て、3時のフェリーで壱岐に渡ってとかいう、その宿泊するお客さんは少ないように見受けられますけれども、対馬に宿泊するようなお願いをその旅行会社にしてあるんでしょうかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私自身がエージェント回りをしたことはまだありません。細かいことですね。しておりませんので、実際エージェント回りをやっている担当部長のほうにお答えさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 失礼いたします。今中原議員さんの御指摘ありました部分ですけども、もちろん宿泊がなければいけませんので、宿泊を込んでセールスはしております。今主に日帰り、対馬に入って壱岐に渡る部分につきましては、ある大手の業者が壱岐と対馬という部分で売っておりますので、対馬で昼食をとって壱岐に向かっているというエージェントが2社ぐらいございます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 2月にモニターツアーを開催しておられます。その状況をちょっと説明をしていただきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 失礼いたします。2月に実施いたしましたモニターツアーは、壱岐・対馬航路活性化協議会のもとで形成いたしました壱岐と対馬のこの観光を新たに古代史に知るというテーマでございまして、九州郵船さんのほうともタイアップをいたしまして、壱岐の原の辻に匹敵する分では、ちょうど価値的には城山の金田城が国指定の特別史跡でございますから、そういう部分をストーリー性のある部分で、これまで東京からの実績のある会社であるとか、これから大阪で展開していく上で興味のあるエージェントとかという部分を九州郵船の

営業と協議しまして、それで選択しまして、さらに九州でも希望されるエージェントがございましたので、そういう部分で対馬に1泊、壱岐に1泊ということで2泊3日で設定して行いましたが、人数的には13社の16名だったかと思っております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） はい。そういった大手旅行代理店にどしどしアプローチをしていただきまして、対馬の売り込みをしていただきたいと思います。

時間になりましたけれども、以上で質問は終わりますけれども、最後に人、物の交流を拡大を促進をしていくことが対馬の活性化、また雇用の確保につながるものと思いますので、これからのますますの奮闘をお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで中原康博君の質問を終わります。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を11時5分にします。

午前10時52分休憩

午前11時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、12番、三山幸男君。

○議員（12番 三山 幸男君） 皆様、改めまして、おはようございます。一般質問の機会をいただきましたので通告の2点を質問をさせていただきます。

まず、その前に、2月21日に行われました長崎県知事選挙において、中村法道新知事が誕生されました。中村知事は、平成14年、15年度に当時の対馬支庁に支庁長として勤務されており、どの候補者よりも対馬の事情は十分承知してくれているものと信じております。対馬のことは私どもが言うまでもなく、いろんな施策で優遇をしてもらえるのではないかと心から期待をいたしているところであります。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、市長と教育委員長にお願いをしておりますので、よろしくお願いをいたします。

まず、1点目のスポーツの県大会を対馬市に誘致、または開催することについてお尋ねをいたします。

観光立島を目指す本市は、もっと県内外に対馬をアピールして、よく知ってもらうためにも、小中学生から高齢者までの各種スポーツ大会の県大会を誘致、また開催するお考えはないのかお尋ねをいたします。